

まえがき

彦根市長 和田裕行

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、豊かな心と感性を育て、将来の文化芸術活動の後継者を育てることを目的とする『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年から実施しております。

今年度もこの事業の一環として、子どもたちの豊かな表現力(考える力・書く力・伝える力)を育むため、「ひこね子ども文芸作品」を実施し、俳句、川柳、短歌、詩の4部門に、延べ五、〇八一人の子どもたちから、八、三七八点もの作品が寄せられました。このコロナ禍でも、例年と変わらずたくさんの方にご応募いただきましたこと、大変うれしく思っております。

一昨年から新型コロナウイルスの影響で、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。学校生活や、家庭にも大きな変化があったことでしょう。しかしこの間、大きな変化の中でもそれぞれがこの出来事とうまく付き合っていく術を徐々に見出しつつあると感じます。

人は困難なことに直面した際、これまでの経験や知識を活用し新たな方向性を探る努力をします。一度やってうまくいかなかったことも、その経験があるからこそ、つぎは「別のやり方」でチャレンジしようとするきっかけとなり、道が拓けることがあります。だからこそ、うまくいかなかった経験も大切で、それが蓄積されることで皆さんが成長するきっかけとなるのです。

言葉も同じです。たくさん「言葉」の蓄積があればあるほど、より多くの表現ができ、より多くの人に届け、伝えることができるのです。ですから、たくさん言葉に触れ、どんどん吸収してください。いずれそれはみなさんの表現の厚みが増すことにつながるでしょう。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には、作品の審査をはじめ、「夏休み文芸ワークショップ」のテキスト編さん等、将来の彦根の文芸シーンを担ってくれるであろう人材育成のために、多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願ひ申し上げ、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

令和四年 三月